

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年1月6日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891600041		
法人名	社会福祉法人 木犀会		
事業所名	花水木	ユニット名	さくら
所在地	〒309-1717 茨城県笠間市旭町629-4		
自己評価作成日	平成26年5月27日	評価結果 市町村受理日	平成26年12月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0891600041-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年7月30日	評価機関 決 済 日	平成26年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

年齢の高い利用者様が多い中、身体レベルの低下も見られますが、日々の状況を把握しつつ寄り添いながら毎日を楽しんでいただき、ご家族様の思いも考慮しつつ笑顔のある生活を支援いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は栗畑に隣接しており、窓越しに栗林で遊ぶ野生の雉が見えるなど、自然豊かな場所に立地している。 毎月地震等を含めた避難訓練を実施し、災害時の利用者の安全確保に備えている。 退院した後もリハビリテーションの必要な利用者には通院支援などをするとともに、職員は常に笑顔で利用者本位の介護に努めている。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員全員で考え独りひとりの利用者様の思いも配慮しながら実践につなげている。又、地域とのつながりもふれあいのできるように心がけている。	開設時に管理者と職員で話し合い、「今日の笑顔が明日につながる」や「生きがいを大切にその人らしい生活が」、「地域の中でふれあいでできる」などのキーワードを含んだ理念を作成し、玄関や事務室に掲示するとともに、職員は申し送り時や職員会議時に唱和して理念を確認し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	近隣の託児所や保育園と連携をとり交流をしたり、町内会に参加して利用者と一緒に回板廻しを行い顔を覚えていただき会話につなげている。花水木の行事に近隣の方達を招待している。区町内に花水木新聞（家族許可）の回覧をおねがいして認知症のことなどを知っていただくようにしている。又、中学校に声をかけ中学生の体験なども受け入れる事を校長先生に声をかけると快く受け入れして頂けることになっている。	事業所は町内会に加入しており、利用者と職員が回覧板を届けながら近隣住民と顔を合わせたり、挨拶を交わしたりして交流している。近隣にある託児所や保育所の園児が七夕祭りや雛祭りに来訪し、利用者と交流している。傾聴ボランティアや事業所の行事には歌や舞踊、大道芸のボランティアが来訪している。事業所の納涼祭には事業所の広報誌を近隣住民に配布し、地域住民や子ども会の参加を得て開催している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	灯籠流し祭りに参加し灯籠を利用者様全員で作成し商工会に提供している。近隣のコンビニエンスストアなどに利用者様と一緒に買い物に行き挨拶や会話で認知症の理解につなげる。夏祭りに子供会の子供達の参加があり、一緒に楽しんでいる。法人全体で認知症の上映会を行い一般の方達に理解を得られるように促している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年間計画を立てて市職員、民生委員、区長、家族代表、町内代表、利用者様代表など参加していただき2ヶ月に1回開催している。会議では家族無記名アンケートの結果を報告を報告しており、行事や今後のとりくみなどを話愛、意見や提案をサービスの質の向上に活かしている。運営推進委員に行事に参加してもらい実情を見てもらっている。又、認知症について勉強会も少しずつとりいれたりしている。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、区長、民生委員、町内会長で2ヶ月に1回開催し、議事録を作成している。会議では利用者の様子や運営状況を報告したり、行政からは運営推進会議と同日に行われた事業所のクリスマス会を見学した感想を受けたり、近隣の小学校から出た施設行事への見学の要望を検討するなど、委員から出た意見等を記録に残すとともに、職員で話し合っサービス質の向上に活かしている。区長や民生委員などの地域の代表が、毎回出席するまでには至っていない。	運営推進会議には区長や民生委員など、地域の代表に毎回出席してもらって開催されることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者に運営推進会議や事業所の行事に参加して貰い、事業所への理解がえられるように勤めている。事業所から市担当課や地域包括センターに出向いて相談するなど、協力関係を築いている。	管理者は市の高齢福祉課や社会福祉課、地域包括支援センターを定期的に訪問し、利用者の要介護更新認定の情報を得たり、事業所の利用状況を報告したりして良好な関係づくりに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアのマニュアルを作成し、認識を深めたりお互いに注意しあうなど、身体拘束をしないケアの実践にとりくんでいる。又、職員はヒヤリハットの記録を回覧することで利用者様の安全を図るように努めて自由な暮らしを支援している。玄関を開けて外に行く利用者様には付き添って見守りをしている。	身体拘束排除マニュアルを作成するとともに、内部研修を実施して職員は禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を理解している。 職員にヒヤリハットの記録を回覧し、利用者が安全に生活ができるように努めている。 玄関は夜間を除き施錠せず、利用者は職員の見守りのもと、自家菜園等に行っている。 やむを得ず身体拘束を実施する場合に備えて「身体拘束の同意書」や「経過記録」、「再検討記録」の書類を整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部の研修やマニュアルを作成し話し合いをしたり、言葉、行動の虐待について注意を払って観察し職員同志が声を掛け合っている。外部の研修や法人の研修も参加していくように心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	花水木としても内部研修を年間のなかで取り組んでいる予定にしている。権利擁護など必要な利用者様には活用できるように支援をしていきたいと思っております。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類を提示し事前に説明を行っている。疑問点にも十分な説明を行っている。経済的なこと不安、介護報酬改正時には個別に文章と共に説明し了解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているほか、家族会で無記名のアンケートを実施、家族などの意見や要望をくみ上げると共に、でた意見等を運営推進会議で話しあい運営に反映している。月1回事業所便りを発行し、事業所の取り組みや利用者様の暮らしぶりを伝えることで家族などの意見が出やすくなるよう努めているほか、家族アンケートの結果を家族に報告している。	利用者からは日々のふれ合いを通して、家族等からは運営推進会議の出席時や面会時に意見や要望を聴いている。 年1回家族アンケートを実施して家族等の思いを汲みあげ、運営推進会議や職員会議で検討し、運営に反映させるように努めている。 「職員の名前がわからない」との家族等の要望により、月刊の広報紙で職員を紹介している。 玄関に意見箱を設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや会議で意見や提案を聞いており、意見等も出やすい雰囲気づくりを心掛けている。個別にも話を聞いている。管理者は利用者様と接する機会が一番多い職員が話しあい物事を決めていくように指導しており、職員の意見やアイデアが運営に反映している。	管理者は申し送り時や職員会議、日常の会話の中で職員の意見や要望を聞くように努めるとともに、職員が意見等を気軽に出来るような関係づくりに努めている。 職員の提案を受け、車いす使用の利用者の入浴介助を2人から3人体制で行うように変更したことで、利用者の安全と職員の負担軽減につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はボーナス時に準職員にも寸志を出すようにしている。管理者は職員の疲労ストレスに気を配り職員が協力体制がよいから「花水木」が楽しい笑いのある職場でいられるとねぎらいの言葉をかけている。毎年の行事などマンネリ化せず多少の変化を出すように考え、又アドバイスをしながらやり遂げた満足感を感じとって向上心につなげられるようになっていく。年度末にはごくろうさんのねぎらいと共に忘年会を行い和気藹々のコミュニケーションをとっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として代表者は全体として研修を年間予定として組み入れている。管理者は力量を把握し役割を持たせ外部研修を受けた職員は伝達し、内部研修でも年間予定を立てている。些細なことでも必ず職員同志ケアの確認をすることでチームワークの勉強につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人としてプロジェクトでの交流、人材育成での交流で勉強会など質の向上させていく取組をしている。又、同業者との交流としてボーリング大会など年間をとおして実施する予定で進めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉掛けや寄り添いながら生活をしていただくことで不安を解消し要望などを把握しそれに対応できるようにしています。又、他の利用者様との関係づくりのため、職員が間に入り一緒にレクリエーションや日常の作業をしながら橋渡しをしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にサービスの内容を詳しく説明し家族の苦労や不安要望に耳を傾けながら又、実際にみていただきながら利用される事で広がっていく可能性を前向きにお話しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様のご自宅での様子など傾聴し御家族様の思いや状況を確認、より良い支援の提案など話しあい、信頼関係を築き必要なサービスにつなげるようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活の中で体験したことなど教えていただいたり、実際にやっていただいたり見ていただいたりしながら、そういう場面が多くもてるように工夫や声かけに配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度は広報誌とともに日常の暮らしぶりをご家族様へ送っている。疎遠となっているご家族様もそれによって現在のその人の暮らしぶりの情報が得られている。電話や行事への参加が増えてコミュニケーションがとれている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は利用者様が希望するなじみの場所に出かけられるように、実家など職員とともに出かけたり、野菜を頂いたりして帰ってきてから、一緒に料理をつくったりしている。これまでに関係が途切れないように支援していると共に、遠方場合は利用者様の希望を家族様に伝えている。知人や友人が面会に来た際にはゆっくりと話しが出来るように支援すると共に、なじみの人との関係が途切れないように電話や手紙での支援にも努めている。又、家族様には知人や友人の面会の許可を得ている。	利用者の友人や知人が面会に訪れた際には、ゆっくり話しが出来るようにお茶菓子等を出して接待している。 利用者の要望により、職員と一緒に利用者の実家や兄弟宅、友人宅を訪問したり、友人との電話の取り次ぎや手紙の投函をするほか、美容室の予約や送迎をするなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり相談にのったり、利用者様と楽しく過ごせる時間やユニットを行き来したり気のあう同士が過ごせる時間をつくり円滑になるように調節役として支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設などへ移動され契約が終了したご本人、ご家族様にたいしても折れに触れて不安なことなど相談ごとはないか声かけすることにしてている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は利用者様との日常の会話や表情、顔色から思いや意向の把握に努めると共に、小さな事でも記録、ケースファイルに記入し、全職員で共有し昼礼で話しあい、利用者様本位の支援をしている。	職員は利用者の基本情報から生活歴を把握するとともに、日々の関わりの中で希望や意向を聴いたり、感情の表出が困難な利用者の場合には、仕草やつぶやきなどから思いを推し測って意向の把握に努めている。 利用者の表情や仕草に変化を感じた場合にはケースファイルに記載し、引継ぎ時などに職員で話し合っって情報を共有するように努めている。 職員が気付いた情報を簡単に記載するノート等を整備するまでには至っていない。	職員が気づき等の情報を共有出来る「情報共有ノート」を整備することを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査は出来る限りご本人のなじみの暮らしをしている場所へ伺いそこから得られる情報を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方、心身状態についてはケース記録にて把握できるように記録し特に特変事項を中心に申し送りをしている。季節や入院、退院などにより状況の変化がある為、その都度、把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを実施し計画作成担当者が中心となり利用者様や家族様などの思いや職員の気づきを昼礼で話しあいカンファレンス時には変更事項を介護計画に反映している。介護計画は家族などの確認を得ている。	介護計画は利用者や家族等の意向や利用者の生活面での課題を把握するとともに、計画作成担当者を中心に職員の意見を取り入れながら、短期目標は1ヶ月、長期目標は3ヶ月で設定し、家族等の来所時に説明して同意を得ている。 介護計画は毎月担当者会議で検討するとともに、介護記録を基に設定期間毎にアセスメントを行っている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合には、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの課題サービス内容実施ジのご本人反応を中心に記録しケア側の気づきも記録している。特変事項は申し送りケアプランへ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望のかかりつけ医へ家族とともに付き添いしている。その他、個人の希望で買い物に行ったり実家へ行ったりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方達と行事の中で歌や踊りを一緒にやり、買い物や外出も回数を増やし、地域の方達との交流を心掛け、室内では食材料を切ったり、テーブル拭き、洗濯たみ、部屋の掃除、など残存機能を活かし意欲的な雰囲気の中、楽しく生活を送るように支援している。外では洗濯干し、庭はき、回覧廻しし、ゴミだしなども一緒に行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院より往診、訪問看護ステーションより健康管理と相談24時間体制で対応している。歯科、整形外科、眼科などの受診は本人や家族に希望に応じて対応している。体調が悪い時に受診するのが身体に負担となるときは電話にて医師に指示を仰ぎ対応している。	利用者や家族等が長年信頼関係を築いてきた個々のかかりつけ医への受診を支援しているほか、月2回協力医療機関の医師による訪問診療や週1回の訪問看護ステーションの看護師による利用者の健康管理を支援している。 かかりつけ医への受診は家族等の付き添いを原則とし、受診の際には日々のバイタルサインの記録や日常生活情報を提供し、受診結果は家族等から聞いている。 家族等が付き添えない場合には職員が同行し、結果を電話で家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や些細な表情の変化を見逃さないように早期発見変化など気づいたことあれば管理者、ケアマネに報告し、訪問看護ステーション看護師または、往診のドクターに連絡対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はお見舞いをし、不安を取り除きご家族様と連絡をとり詳しい状況を報告している。病院の主治医や相談員とも連絡を取り又、往診のドクターや訪問看護ステーションとも連絡を取り合って退院時も健康管理をおこない適切な医療が受けられるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りの対応方針を契約時に利用者様家族などに説明すると共に同意を得ている他、意思確認書を作成している。今年も家族会で家族会で看取りに関する勉強会を開催し、事業所と家族との共通認識につとめていくようにしていく予定である。又、無記名アンケートでも重度化や看取りについて理解ができてきているかの確認をしている。	「利用者の重度化した場合における対応に係る看取り指針」や「終末期介護マニュアル」を作成するとともに、契約時に利用者や家族等に説明して同意を得ている。 家族等への無記名のアンケートでも重度化した場合や看取りについて理解しているかを確認している。 終末期ケアに向けて職員で話し合ったり、研修会を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	花水木として消防署消防員がこられ利用者様の急変や事故発生時の応急手当など転倒、誤えんじ時、てんかんなど、全員が研修をおこなった。又、法人としても蘇生法など消防署にて研修をおこなった。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導で年2回避難訓練を実施記録を作成し訓練であきらかになった課題を話し合っている。又、「花水木」だけで独自実施訓練している。災害に備えて食料や飲料、ガスコンロ、ガスボンベなどその他を備蓄している。賞味期間、期限など毎月確認支不足分は補充するようにしている。夜間体制時の対応の避難訓練にも重点をいれている。	夜間想定や地震、火災を含めた総合避難訓練を年2回実施するとともに、毎月事業所独自で漏電等を想定した訓練を実施している。 実施記録を作成し、職員で話し合っって明らかになった課題を次につなげている。 米や飲料水、副食品、衛生用品等を備蓄しており、品名や数量、賞味期限等を記載した備蓄品リストを整備している。 避難訓練に近隣住民の参加を得るまでには至っていない。	避難訓練に近隣住民の参加が得られるよう、運営推進会議で話し合ったり、区長を通して働きかけることを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の声かけも個人を尊重し言葉使いに気を配り、家族様の希望にあわせ、利用者様が聞きなれた呼び方で対応している。トイレ誘導や失禁時の声かけは誇りを損ねないように注意しているほか、ポータブルトイレは一目につかないように布をかぶせるなどの配慮をしている。個人情報に関する書類は事務所に保管している。	職員は家族等の希望にそって利用者が聞き慣れた呼び方で対応しているが、利用者を人生の先輩として人格を尊重した言葉遣いを基本としている。 トイレ誘導や失禁の際には小声で話しかけたり、居室のポータブルトイレには布等を被せたりして、プライバシーに配慮した対応をしている。 個人情報に関する書類は、事務室の鍵のかかる書棚に保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の希望に応じて外出支援外食の支援を行っている。本人の訴えを優しく受け止め無理強いをしないように答えやすぐ選ぶことができるように支援している。利用者様が外へ行きたい時は一緒に歩いて付き添っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人ひとりのペースにあわせて家事支援を柔軟に行っている。その日の体調や気分を配慮しその時の利用者様の気持ちを尊重し無理のない内容で対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日中でも本人の意志にて着替えなどを行っている。自己決定がしにくい利用者様には季節など考えながら一緒に選べるように支援している。移動美容室も利用している。行事の時は特に女の方はお化粧を職員がお手伝いして生きいきとしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫した野菜を加えるなど栄養バランスの良い食事を提供している。利用者様にその日の体調にあったご飯の量を確認し咀嚼や嚥下状態にあった食事形態となるように配慮をしている。利用者様は出来る範囲で下膳や食器拭きなどを職員と一緒にやっている。献立がなじみのものでない時ご利用者様と相談し変更するときがある。	職員は利用者と一緒に季節の生花が飾られた同じテーブルに着き、食事介助や見守りをしながら同じ食事を摂っている。利用者は出来る範囲で野菜の皮むきなどの下ごしらえや食器拭きなどの役割を担っている。献立に利用者の嫌いな物があった場合には献立を変更したり、自家菜園で収穫した野菜を食材に取り入れ、季節感を味わえるように支援をしている。雛祭り等の行事には、混ぜご飯や赤飯などの行事食を提供し、食事が楽しめるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副菜が多いときはご飯は少し減らしている。途中、間食のあった方は3食で調節するようにしています。水分制限のある方は目安表を摂取していただいています。利用者様の身体機能に応じて刻み食、ミキサー食、栄養補助食品などの支援をしています。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯はポリドントなどで消毒しています。残存歯はできるところまでご自分で歯間ブラシを利用していただき仕上げは介助しています。必ずうがいを食事の後はしていただいています。義歯残存歯ともにご自分でみがいた後にみがきなおしが 必要な方についてはプライドに配慮しながら仕上げ磨きを行っています。うがいが出来ない方についてはガーゼを使い口腔内をぬぐっています。又、食事の最後にお茶を飲んでいただき口腔内に食物が残っていないか確認します。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を参考に排泄パターン、利用者様のサインに気付き又、トイレの訴えのない利用者様でも排泄を促し気持ちよく排泄できるように支援しています。排泄の訴えのない方はその方に合わせた時間で誘導を行いトイレでの排泄をうながしている。必要のない者（リハビリパンツ、パット）は外して健常者であった時に近い形での排せつを目指している。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、個人のリズムに合わせてトイレ誘導を行い、できる限りトイレで排泄が出来るように取り組んでいるほか、日中は布パンツで過ごせるように排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を参考に排泄パターン、利用者様のサインにきずいて、又トイレの訴えの内利用者様でも排泄を御流し気持ちよく排泄できるように支援している。便無し続く時ヨーグルト、バナナなど食べていただく。腹部マッサージ、便秘予防体操などおこない水分摂取し排便チェック表を使用し一人ひとりの状況に応じ支援している。定期的にヨーグルト、ヤクルトを飲用し個々にあわせ予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴表を作成し週2回から3回入浴できるように支援している。入浴をこのまない利用者様には日をずらしたり、清拭や足浴などの対応をしている。	入浴は週2回を基本とし、午後の時間帯に入浴ができるように支援をしている。 入浴を拒む利用者にはタイミングを見計らいながら再度入浴に誘ったり、声かけの仕方を変えるなどして無理のないように促している。 利用者の体調に合わせ、清拭や足浴に切り替えて対応している。 菖蒲湯や柚子湯を取り入れ、季節感を楽しみながら入浴が出来るように工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの意向を確認しながら利用者様の状態にあわせ休まれる環境を整え休息したりしていただけるようにしています。遠慮していると思われる御利用者様もいるので遠慮せず疲れたら休んでくださいなどと声を掛けをすることで、心おきなく休みたい時に休めるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各居室担当による服薬状況の確認や薬のジョイントのチェックを行い薬使用にあつたての用法、用量などレポートなどにまとめるなど薬の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑での野菜作りや調理食器の片付け、洗濯物畳、毎日のリハビリ体操などの利用者様一人ひとりに合った楽しみや自信の持てる役割の支援をしている。役割の終了後には必ず感謝の言葉を伝えている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望で個別に買い物、コンビニエンスストアでのお茶飲みや職員による個別散歩支援、天気の良い日には外での長椅子にすわったりしてくつろいでいる。家族と外食ツアーを年間内で予定を立てている（10月ごろ）。全員でふだん行きような場所への支援も考えてはいたが、体調不良や気候の変化や車椅子の方が多く中、なかなかタイミングがとれないため個別で希望をとり少しずつ支援をおこなっている。	職員は利用者の体調に配慮しながら一緒に近隣を散歩したり、近くのコンビニエンスストアへ買い物に出かけたりしている。敷地内の自家菜園で野菜を栽培しており、利用者が野菜の手入れをしながら自然に接する機会になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭貴重品は事務所内で管理保管しているが財布など保管場所などを利用者様に伝え不安にならないように支援し。小額を管理できる方はご本人へ管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出によりホームの電話を使い知人への連絡をしている。又、面会にこられない家族には本人より電話をしたりして話しをしている。年賀状など本人に書いていただいたり、手紙など情報交換も支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは少し狭いが段差もなく事務所を通りユニットからユニットへ自由に行き来が出来、なじみの職員、利用者様と会話はずんでいるリビングから景色も遠くには山が見えたり栗畑が見えたり、きじが飛んできたり自然を感じられ気分をやわらげてくれている。花壇で花や畑で野菜を作り室内に飾ったり献立に加えるなどで、暮らしに季節感をとりいれている。	居間兼食堂は快適に過ごせるように室温や湿度が一定に保たれている。居間兼食堂には観葉植物や季節の花が飾られ、利用者が寛げる場所となっている。ユニット間の通路の壁面には七夕や蕎麦打ちなどの行事の写真や運営推進会議議事録が掲示されている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのほかにも椅子ベンチ（玄関の外）において思いにすごせるようにしている。気のあう利用者様同士がユニットからユニットへ移動して話しが出来るようにしている。ゆっくりと一人になりたい時家族などゆっくり話しあえるご自分の部屋がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活用品の持ち込みは制限なく利用者様は家族と相談しながらテレビ、家具、仏壇などを持ち込むなどで心をいやしている。又、昔ちぎり絵を教えていた利用者様は部屋にか飾っている。	居室にはエアコンやカーテン、クローゼットが備え付けられている。 利用者はベッドや使い慣れた布団等を持参したり、仏壇や家族の写真、孫が書いた習字の作品、自分で制作したちぎり絵の作品を飾ったり、使い慣れた筆筒や人形、テレビなどを持ち込んだりして快適に生活出来るように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同空間では廊下をはじめ手すりを随時設置、居室においては一人ひとりの身体機能に合わせて、ベット、ポータブルトイレ、家具類を設置し自立した生活が送れるように工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 花水木

作成日 平成26年12月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	23	職員が気付き等の情報を共有出来る。	情報共有化	情報共有ノートを整備する	1年
2	35	避難訓練に近隣住民の参加を	住民の協力	運営推進会議で話し合い区長を通して働きかける	1年
3	4	運営推進会議に活かした取組み	区長や民生委員の参加	毎回出席してもらって開催	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。